



## あれから10年・・・

2011年3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生し、東北沿岸部を大津波が襲った。2万人近い人々が犠牲になり、生活基盤が破壊され、多くの人々が長い避難生活を余儀なくされた。

連合は発生後ただちに災害救援対策本部を立ち上げ、3月31日には「連合救援ボランティア」の第一陣を派遣した。

あれから10年・・・大切な家族や友人、住み慣れた家や街並みを失った悲しみは消えることがない

西和地協の仲間でも、あの時、故郷に帰省をしていて被災された方が居り。10年が経過した今、大変な惨状の体験を振り返っていただきました。

ヤマト運輸労働組合奈良支部  
藤野 九一 執行委員長

『ゴオー』と、もの凄い不気味な地響きとともに、東日本に甚大な被害をもたらした2011年の東日本大震災の発生です。10年前私は宮城県に父の法事のため帰省中でした。私の生まれたところは宮城県石巻市です。石巻市は震源地にもっとも近くもっとも被害を受けた場所とされています。亡くなられた方は、3000人超、行方不明400名超のうち私のお婆さんは10年経った今も見つかっていません。

私はヤマト運輸労働組合の委員長をしています。また運輸労連奈良県連合会の書記長をしています、藤野九一と申します。

奈良県とは違い、宮城は地震が多い所と認識しているので、『またか』くらいの感じでしたので、発生中あまり心配しませんでした。徐々に

に大きくなり体験したことの無い大きな揺れに変わってきました。激震、爆震、揺れる時間が強く長くなるにしたがって不安が募り、津波が来ることを確信しました。幸いにも発生時山沿いに居たので津波に遭うことはなかったのですが、地震の影響で、インフラが全て停止、コンビニはレジでの清算ができない 自動販売機もただの箱、携帯を充電しても、携帯会社のアンテナに電源供給がないために通話ができない、スタンド給油ができない。日頃普通にできることが全くできない状況になってしまいました。情報はラジオだけ、1、2、3日目とラジオは不正確な被害情報が飛交う状況、どれが本当でどれが嘘か判断は自分だけとなりました。とにかく実家に行くこ



とにしました。石巻市に近づくにつれ、道路がない、津波がまだ引いていない、道なき道を進むにつれ莫大な被害を轟々と感じ取れました。

山を越え今まであったはずの町が無い、バスは公民館の上に 学校は廃墟と化し、郵便局も、銀行もあったはずの町並みが変わってしまった、海のそばにあった病院も津波が襲い64名が犠牲となった。海には誰のかわからない家が流れ着いていました。道がない、道がここにあるはずの道が無い、そしてやっとたどり着きました。母親は無事でしたが実家は跡形も無くなっていました。情報がない避難所では、若い衆が流れ着いた冷蔵庫から食料品を調達、高齢者の多い事から、過酷な避難所生活を余儀なくされていました。道中に児童と教員、84名が犠牲になった大川小学校もあり、今でも当時のまま、残されています。

あれから10年、「地震があったら津波の用心」と昔から伝えられていましたが、あれほど大きい津波が来るとは誰も想像できなかったのです。昔の教訓が活かされなかったのです。時間が経つにつれ自然災害に対する意識が薄れ、私は大丈夫と被害にあってしまいます。まずは我が身の安全を確保してください。人は自然には無力なのです、関西もいつ起きるかわからない南海トラフ地震には、十分な対策、減災そして最低限必要な備えをしなければいけません。



pixta.jp - 1593872

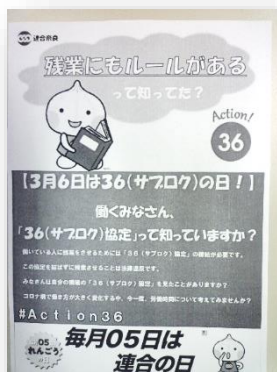
被災地はまだまだ復興中です。そう簡単に現地には行けません。私達でできる復興支援を考えてみてはいかがでしょうか。

被災地はまだまだ復興中です。そう簡単に現地には行けません。私達でできる復興支援を考えてみてはいかがでしょうか。



## 「連合奈良の日」街宣行動

西和地協では「連合奈良の日」の街宣活動を新型コロナウイルス感染拡大により昨年の12月から中止し、それに代えて街宣車にて西和地協当該地域（生駒市・大和郡山市・天理市・生駒郡）を流し街宣で連合の取り組みを訴えてきました。また、街頭で皆さんに配布していた連合チラシについても新聞に折り込み広告として各エリアに配布しております。



新型コロナウイルスの感染は各地方により差はあるものの感染者数が少ないところも安心できず、変異株も拡大しつつあります。

このような状況を踏まえ「連合奈良の日」の取り組みは当面流し街宣とチラシの新聞折り込みを継続してゆきます。